

あたしのまわりの水

城南小 四年 和須津 風花

「お母さん、今日もいたよ。」

わたしは、休みの日に秋の校内マラソン大会のために家の近くの川の周りを走っています。その時に、カワセミというお腹がオレンジ色のきれいな青い鳥を見かけることがあります。大きさはツバメと同じ位です。見つけた時はお母さんに伝えるとおたも見たか「たあ」といっても言います。

家にある野鳥図鑑でカワセミを調べてみると、都市近郊では河川の汚染などから激減したか、近年では復活しつつある」と書いてありました。なのカワセミはきれいな川や沼、湖にいる鳥だと分かりました。その川を会津若松市の地図で見ると、門田町御山という総合の学習で行った柿農家さんの方から流れてきていました。その柿農家さんからいただいた桃も柿もとても甘くておいしかったので、きれいな水が流れている川の近くででき

ている果物は、みずみずしくてもおいしいのだと思います。

そして川の役割が書いてある本を読んでいたら、上流では電気を作る発電所、中・下流では水を作る浄水場があることを知りました。そしてあたしの家の蛇口から流れてくる水は、川やダムから取り込み浄水場できれいにして、道路の下を通っている上水道管を通じて家まで流れてきていました。川がきれいだと水もおいしくなると思います。ある日、ふと使っ

た水はどこに行くのだろうと思っていた。川に流れていくのかと思って家のまわりを見ました。川に出ている所は見つけられませんでした。このことも本で調べてみると排水口から上水道と同じように道路の下を通っている下水道管を通じて下水処理場へ流れている。そこで最初には沈砂池で大きなゴミを取りのぞき、沈んで小さなゴミをゆくりしずめてとりのぞき、反応タンクに加えた微生物によつてこれを食べてもらいます。よ

これがなくなつた水は消毒され川にもどされ
ます。しずんだよごれは田んぼや畑の肥料に
使われることもあ

会津若松には阿賀川という一級河川があり、
わたしの家の近くの川も阿賀川に合流します。
そして新潟県で阿賀野川という名前に変ちり
日本海に流れていきます。一級河川というの
は、人びとのくらしを守り、産業や経済を
展させるうえで重要な河川で、国が管理して
いる河川だそうです。最近読んだ本に、ね

ねこ^四という力の強い妖怪が出てきました。
ねねこは利根川に住む河童の親分だそうです。
利根川は関東にある川で日本の三大河川でも
あり坂東太郎という名前も、ついているよう
です。人の名前のような呼び方があるなんて
面白いです。九州の筑後川が筑後
次郎、四国の吉野川が四国三郎という名前が
ついていてなんと三兄弟だ、たはおどろき
ました。

わたしは今、いつでも蛇口を開けると飲む

ことができる水が流れてきます。でも世界の約四分の一の人は日本のように安全できれいな水を飲むことはできません。そしてアフリカにはおたしと同じくらいの年の子どもたちが、川や湖や用水路などの安全ではない水を毎日何時間も歩いてくみに行っています。世界の水不足は地球温暖化による気候変動もその原因の一つといわれています。浄水場や下水処理場で水をきれいにするにはたくさんのお金を使うようです。電気を作るために発生する二酸化炭素は気候に影響を与え、雪や雨が降りすぎたり、少なかりして川の水量が減ったり洪水が増えたりしています。わたしたちが水を大切に使うことは、水をきれいにする電気が少なくなります。だから使わない電気を消したり、わたしにもできることを続けていきたいです。